



地区別人権教育研修 6年生学級活動

今日11日(月)、地区別人権教育研修会が行われました。帯西は、授業づくりの会場となり、6年2組で学級活動の提案授業が行われました。今回の授業は、「相手の気持ちを考えて声をかけよう」という題材で、共感しながら友達と関わり、よりよい人間関係をつくろうという内容でした。担任の清水先生が授業の導入のアンケートで、「友達が喜んでいるとき、一緒に喜ぶことができる」逆に「自分が嬉しかったとき、学級のみんなは一緒に喜んでくれる。」という内容を提示しました。自分はしているつもりでも、相手はしていないということに気づき、そのずれから理由を考えました。また、子供たちにそもそもなぜ、相手の気持ちを考えて、関わった方がいいのかを担任から尋ねると「仲が深まる」「また喜ばせたい」「学級目標の『相手の立場に立って』に近付くため」と子供たちがこたえ、学級目標を意識した学びになっていることを実感することができました。

また、担任が映像で関わり方の映像を2本観て、その違いから、共感的に関わるポイントに気付いていきました。そのポイントを生かして、実際にいくつかの場面をどう関わっていくのか班別に解決方法を話し合っ、ロールプレイとしてやってみました。

場面は4つ準備しており、「跳び箱のできなかった技ができるようになった」「音楽会の担当楽器が弾けるようになった」「集会での発表を頑張ることができた」

「(たてわり班で下級生が)鬼ごっこでタッチできた」などの場面で友達や下級生にどういう声掛けを行うかを班ごとに考え、実際に役割演技でやってもらうという内容です。そして、今後自分がやっていきたいことをめあてとして設定し、具体的な行動目標としました。

一人一人が、めあてに向かって行動することで、学級目標に近付き、さらには学校目標の実現にも近付くと思います。6年2組の皆さんのこれからの行動に期待しています!今回は、共感することについて子供たちと共に学びましたが、共感することで、相手から「この人だったらわかってくれる」「この人だったら信頼できる」と感じてもらうことに繋がります。そういう関係が学級の中で築けたら、充実した日常生活がおくれるような気がします。

今回の学級会について、子供たちが帰った後に、帯中・錦ヶ丘中校区からの参観者で授業研究会を行い、「うちの学校でもぜひやってみたい」「子供たちが役割演技を堂々とやっていて素晴らしい」など、職員一人一人が学習づくりへの意見を出し合い、明日からの自分自身の授業づくりに活かすことができました。

今回の授業は6年部でも共通実践を行い、6年生全員が人間関係について学び合っていくそうです。6年2組の皆さん、貴重な学級活動の授業を共有させていただき、ありがとうございました。

